

【「日常業務の中で受験勉強をする」という考え方】

1. 仕事の時間＝受験勉強の時間

「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」では、“日常業務の中で”をキーワードとした以下の資料を4本掲載しました。

- ①日常業務の中で“文に変換する力”を鍛える
- ②日常業務の中で“文の作成力”を鍛える
- ③日常業務の中で“論文（答案）を書くこと”に慣れる
- ④日常業務の中で“頭の中を整理する”に慣れる

これらの資料を掲載したのは、「日常業務の中で受験勉強をする」つまり「仕事の時間＝受験勉強の時間」という考え方を持っているからです。

2. 日常業務の中でできる受験勉強の内容

「日常業務の中で受験勉強をする」と言っても、日常業務をする時間（仕事の時間）に受験のための参考図書などを読むことではありません。これは、『論文（答案）を書くこと』および『頭の中を整理する』に慣れる」ということです。

専門知識や応用能力の試験問題では、日常業務の中で行っている内容が解答になることもあります。この場合には、「日常業務の中で受験勉強をする」という考え方が適用できます。しかし、このような問題は、日常業務の中で行っている内容の一部（限られた範囲）が対象だと思います。

『論文（答案）を書くこと』および『頭の中を整理する』に慣れることは、自宅で受験勉強をするときにもできます。しかし、「技術文書（報告書、会議や打ち合わせで使う資料、提案書、企画書、メールなど）を書くこと＝論文（答案）を書くこと」と考えると、日常業務の中でこれらに慣れることが慣れるための最も確実な方法です。

3. 試験日までの一日を有効に使う

試験日までの一日は、日々生活するための時間（就寝・食事など）、仕事の時間（通勤時間も含む）および自宅などで受験勉強をする時間の3つの時間に区分できます。「平日は仕事をする（仕事の時間がある）」、「会社の休日は仕事をしない（仕事の時間がない）」などの違いはありますが、基本的には、試験日までの一日はこの3つの時間に区分できます。

日常業務をする時間（仕事の時間）には『論文（答案）を書くこと』および『頭の中を整理する』に慣れる、自宅などで受験勉強をする時間には「解答を考えるための知識や技術を学ぶ」のように分けて考えることで試験日までの一日を有効に使うことができます。